

国際便が増えている地方空港の例

	チャーター便回数	
	2001年度	06年度
北海道		
旭川	20	336
釧路	23	221
苫小牧	6	106
北陸		
富山	121	183
能登	—	65
九州		
宮崎	87	255
佐賀	10	77

アジアの航空各社

地方空港へ就航拡大

旅行会社 温泉など商品幅広く

急増する訪日観光客を取り込もうと航空や旅行会社も走り出している。アジアの航空会社は日本の地方空港への乗り入れを拡大。二〇〇七年度の海外と地方空港を結ぶ定期便（成田、羽田、関西、中部空港を除く）は〇三年度比二四％増の週

七百九十六便、チャーター便は二・三倍の年五千二百四便に急増した。香港エクスプレス航空は四月に岡山や鹿児島に路線を開拓。台湾の立栄航空も〇七年度に三百八十便を運航。富山や札幌函館便を就航させた。台湾のマンタリン航空も約

四十の地方空港に乗り入れている。マレーシアの格安航空会社（LCC）であるエア・アジアXは茨城などへの就航を検討。全日本空輸も「アジアからの訪日客を積極的に集めるため」（山元峯生社長）にLCC設立を検討中だ。

旅行会社も外国人取り込みに知恵を絞る。日本旅行は七月をメドに英語版の宿泊サイトを開設、海外から簡単に予約できるようにする。中国人団体客を対象にしたツアーも現地旅行会社に販売。外国人に人気の「温泉」

「和風旅館」などのニーズに対応している。JTBグループも中国人旅行者を取り込むため修学旅行などを強化する。

日本から海外への旅行者は〇〇年のピークに比べ三％減り、急成長する外国人マーケットの開拓は急務になっている。地方自治体も観光客誘致に注力。富山県は台湾からの着陸料を安く設定、〇七年度の富山空港の国際チャーター利用者は三万七千人と前年度比四二％増えた。世界自然遺産の北海道・知床半島を訪れる外国人も多い。